

経済学史 (2019年度前期)

第3講その1: アダム・スミスと『国富論』

担当者: 佐々木 啓明*

*E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp; URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

——スミスの生涯と著作——

アダム・スミス (Adam Smith, 1723–1790), スコットランド生まれ.

1759年: 『道徳感情論』を出版.

→ スミスの想定する人間像は, 利己心のある程度は自己規制するストイックな人間.

1776年: 『国富論』正式名称『諸国民の富の性質および諸原因に関する一考察』(An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations)を出版.

→ 統制と規制の経済学であった重商主義を批判し, 経済問題の解決は, 市場機構の「見えざる手」に委ねられるべきであると主張した.

——富とは何か——

『国富論』の書き出しは以下のようにになっている。

「すべての国民の年々の労働は、その国民が年々消費する生活の必需品や便益品のすべてをその国民に供給する、もともとの原資であって、それらのものはつねに、その労働の直接の生産物であるか、あるいはその生産物で他の諸国民から購入されたものである。

したがってこの生産物と、またはこの生産物で購入されるものと、それを消費するはずの人びとの数の割合が大きいか小さいかに応じて、その国民が必要とするすべての必需品および便益品の供給を受ける度合いがよかったり、悪かったりすることになる」

富とは金銀財宝ではなく一般的な消費財である。

→ 1人当たり消費量で富を測る、ということ。

——諸国民の富——

●分業と市場

分業により労働生産性が上昇する.

→ 有名なピン工場の例

分業は市場の広さによって制約される.

分業が確立されると人々は生産物を交換せざるをえない.

物々交換は困難なので, 貨幣を媒介として交換することになる.

交換のためには交換比率を決定する必要がある.

原始社会では, 投下労働量が交換比率を決定する.

→ ビーバーを捕らえるには, 鹿を捕らえる2倍の労働が必要.

資本制経済になると, 価格は賃金, 地代, 利潤から構成されるようになる.

→ 自然価格の理論.]

- 分業と資本蓄積

分業は市場規模に制約されるが, 市場規模は資本蓄積によって制約される.

市場規模 → 生産物への需要量 → 所得を持っている人がどれだけいるか → 労働人口の数 → その国がどれだけ豊か → その国がどれだけ資本を蓄えているか

- 生産的労働

生活財や消費財を生産する「有用な労働」のこと.

- 不生産的労働

召使い, 官吏・役人の労働, 商人の労働といった, それ自体は消費財を生産しない労働のこと.

生産的労働と不生産的労働の割合を決めるのは、その国の産業構造。資本がどのような産業に多く向けられているかによって、生産的労働の割合も決まる。

→ 資本蓄積は、生産的労働の割合を増大させるようになされることが望ましい。

● 資本投下の自然的順序

農業 → 工業 → 商業の順に資本が投下されることが望ましい。

農業の生産性が上昇 → 工業により多くの資源を投入することが可能 → 工業内での分業が進展 → 工業と農業が互いの生産性を高め合う → 社会全体の生産力が高まる → 分業と交換が複雑になる → 交換取引を仲介する役割としての商業が必要